

行田税務署管内納税貯蓄組合連合会長賞 銀賞

老後生活の不安と今私にできること

行田市立行田中学校

三年 越 もえ香

あと五十年後、六十五歳を迎えた私は、どのような生活をしているのだろうか、結婚をして、専業主婦として旦那さんと暮らしているのか、それとも、定年まで働いて、定年退職をしたところだろうか。今の私にはまだ想像がつかない。

先日、著しく少子高齢化が進む日本で、近い未来訪れるときれる問題を知った。それは、働けなくなってお年寄りや、様々な人を支える「社会保障」の費用が増えることだ。さらに、その費用を負担する「働き手」が減ってしまうということもある。すると必然的に、「働き手」の負担は非常に大きくなるだろう。

ところで、現在の「社会保障」は、いつ、どこから賄われているのだろうか。私は、「年金」としてもらえるお金は、「働いているときに国に納めていた税金」から賄われているものだと思う。ところが、自分が定年退職をした時にももらえるのは、自分で「あらかじめ」納めておいた税金ではなく、「その時」働いている人が納めている税金から賄われているらしい。「働き手」が減っていくことが予想され、「高齢者」が増え続ける日本で、「若者」とされる私たちの老後には、安心して暮らすことのできる社会が保障されているのだろうか。

このことを考えると、将来私たちが働けなくなったときの生

活の保障に不安がある。安心して暮らせるだけのお金がもらえるのか、今と同じ六十五歳から年金をもらうことができるのか。もしもそれができなかつたらどうなるのだろうか。

そんな日本を変えるのは、今を生きる私たちだと思う。今当たり前前に学校に行き、当たり前前に毎日を過ごすことができるのは、今までたくさんの方が国のため、地域のために働いて、税金を納めていてくれたからだ。だから私たちは、その思いを受け継ぎ、後世に安心・安全な日本を残す義務がある。さらに、今の時代に合わせた、工夫や改善が必要だ。そのために今、何ができるだろうか。

私には勉強できる環境がある。日本の将来を担う一員として、一生懸命に勉強したいと思う。